

4 新潟市秋葉区塩辛遺跡工事立会出土遺物

報告に至る経緯 舟戸遺跡確認調査・工事立会出土遺物の報告経緯と同様である。

(1) 工事立会 (2000122)

所 在 地 新潟市秋葉区朝日字塩辛145-1外

調査の原因 宅地造成

調査期間 平成12年6月19日

調査面積 19.0m²

調査担当 渡邊朋和

処置 工事立会

調査の概要 溝1基と竪穴住居のある落ち込み1基が確認されている(図3)。遺物が出土したのは、II・III層及び遺構覆土で、今回報告する土師器2点は、どちらもこの竪穴住居の可能性のある落ち込み覆土から出土した。出土位置は近接しており、一括遺物である可能性が高い。

報告遺物 1は内面が黒色処理された杯である。内湾する体部に緩やかに口縁部が外反する形態で、内外面ともに丁寧なヘラミガキが行われる。2は甕で、あまり張らないやや長胴の体部に外傾・外反する口縁部がつく。底部は欠損する。調整は体部外面に斜位のハケメが観察される。なお、体部外面にススの付着が認められる。

まとめ 1・2の年代については、形態などから古墳時代中期末～後期前半を中心とする時期に位置づけられよう。既報告遺物〔渡邊・高野ほか2004〕と形態や調整で類似する点が多いことから近い時期と推測される。

本遺跡の西に隣接する舟戸遺跡では、本発掘調査(1993004)において古墳時代中期の遺物が多く出土した。内面黒色処理された土器が破片で2点のみの出土であることから、古墳時代中期末以降、活発に活動した状況は想定し難い。一方、塩辛遺跡で中心となる時期は、前述のとおり舟戸遺跡で遺物量が減少する時期にあたる可能性が高い。このことは、舟戸遺跡と塩辛遺跡が一連の集落で、時期により生活空間を異にした可能性を示唆する。

(相田泰臣)

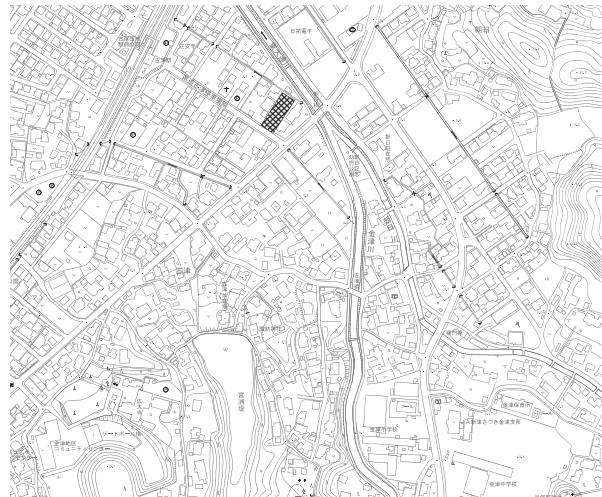


図1 調査位置図 (1/10,000)

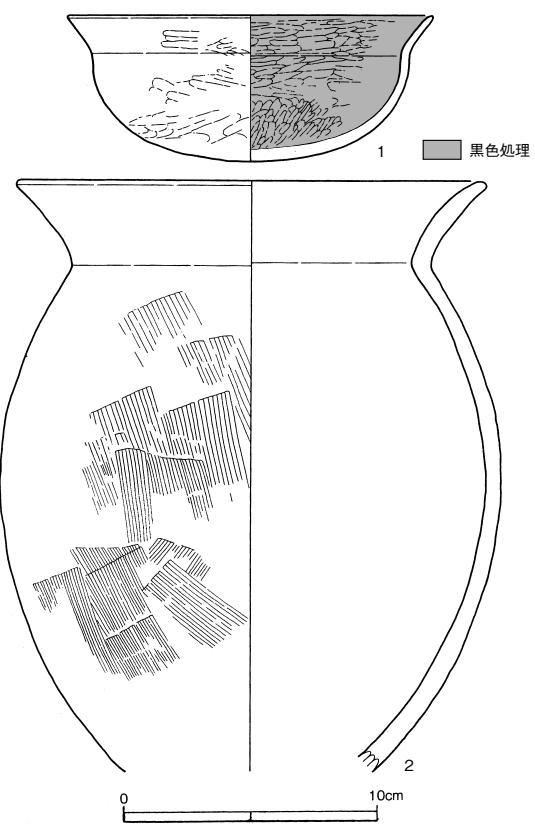


図2 遺物実測図 (1/3)

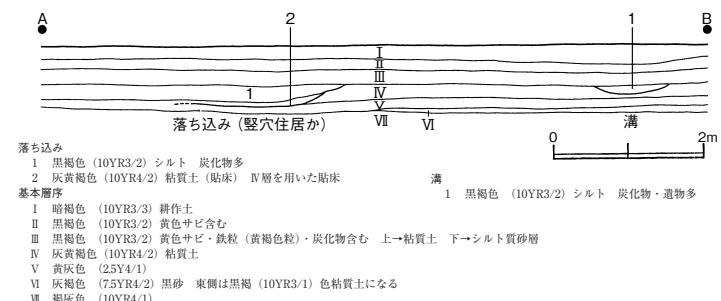
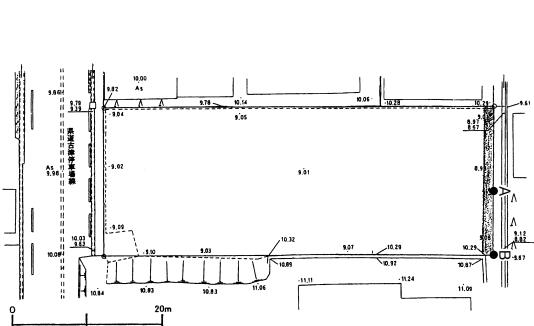


図3 工事立会平面図 (1/1,000)・断面図 (1/100)